

「福の会」の活動について

小澤 葉菜^{*1}／加藤 隆志^{*2}

^{*1} 相模原市立博物館資料整理員 ^{*2} 相模原市立博物館学芸員

1 福の会について

福の会は、民俗・生活資料の整理を行うことを目的として、平成 24 年（2012）の秋に発足した市民によるボランティアの会である（注）。南区下溝に在住の福田家の蔵の中の資料が寄贈されることを契機に結成された。福田家は、北条氏照（1540-1590）の家臣を祖先に持つと伝えられる旧家である（福田家の来歴については、『相模原市立博物館研究報告第 21 集』『相模原市南区下溝の福田家の来歴とその蔵などについて』を参照）。

この蔵（写真 1）は、明治 30 年（1897）に建てられたもので、管理は現当主福田弘夫氏（昭和 22 年〔1947〕生）の母利子氏（1909-2001）が行っていた。蔵の内部には、釜や鍋、重箱、食器類といった日常の生活用具をはじめ、3 月や 5 月の節供人形、かつての結納の品々、そして大量の衣類などさまざまなものが収められていた。福の会の活動は、まず平成 24 年 10 月の二日間に渡り、これらを蔵の外へ運び出すことに始まった。その際仕分けをし、博物館に寄贈いただくことになったものは、11 月に福田家から館へ搬入をした。その後、12 月にかけてそれらを丁寧に清掃、洗浄した。同時に寸法の計測や写真撮影を進め、改めて資料としてカードへの記録作業を開始し、資料燻蒸の後に大型収蔵庫へ収蔵した。平成 26 年 11 月に資料への注記が完了し、一通りの整理作業が終了した。なお、福田家資料の全体数は、12 月 18 日現在で衣類が 340 件 474 点、衣類以外が 169 件（1267 点）である。

また、平成 25 年の夏には、福田家が在住している新屋敷地区で使用されていた講中道具も寄贈されることとなり、整理作業に着手した。講中道具は、冠婚葬祭を自宅で行っていた時代、訪れる大勢の人のために必要とされた道具を地域の人々で共有したものであり、膳碗や皿といった食器類から、三三九度の盃などの婚礼用具、土葬の頃に使用された穴掘り半てんなど、かつての地域の社会生活のあり方を偲ばせるさまざまな道具があった。

2 福の会の展示について

福の会では、平成 26 年 5 月 25 日から 6 月 30 日の会期で「蔵の中の世界②～福田家資料紹介・市民の力で博物

館資料へ～」を開催した。これは、上記のような整理作業の成果をもとに、市民の日々の活動内容を広く一般に知らせることを目的に実施したもので、展示資料の選定や実際の列品作業、会期中の展示説明なども福の会会員が行った。展示した資料は、主に福田家の蔵の資料と新屋敷講中道具である。

■福田家

〈節供〉

節供関係で展示したものは、雛人形や組み立て式の御殿飾り、五月人形やこれも組み立て式の御座敷幟などである。特に五月人形は、戦前生まれの現当主の兄に贈られたものはその数も多く、初節供の時に撮影されたと思われる写真（昭和 13 年〔1938〕頃）とともに、その人形の一部と赤ん坊が着ている祝着も展示した（写真 5）。

〈日常の生活用具〉

ここでは、木製の枕や携帯用弁当箱、富山の置き薬（薬箱）、草履、下駄、酒まんじゅう籠といった日常の生活用具を展示した。福田家では祭りの時などに 200 個ほど酒まんじゅうをつくり、厚木の親戚の家まで自転車で配りに行っていたという。そしてなかには、年代のわかる資料もあった。たとえば祝い事に用いる吸物碗の木箱には、「明治三十八年新調 吸物碗 満留重婦久田」（福田家の屋号を表す「〇に十」と「ふくだ」）と表記されていた。また、日本赤十字社から贈られたとみられる記念品の木箱には、「日本赤十字社創立 二十五年記祝典記念 高座郡委員部」の墨書があり、明治 35 年（1902）のものとわかる（写真 6 中央）。

〈衣類〉

蔵の中に最も多く収められていたのが衣類である。総数は前述の通りだが、その中から、男性物、女性物、子供物、それぞれの日常着や晴れ着、帯や履き物、襦袢や風呂敷などを展示した。また、今回はマネキンに紋付きを着せて展示する方法もとられ、より立体的な展示になった。

■新屋敷講中道具

〈食器〉

先にも述べたが、講中道具は冠婚葬祭などの際に必要とされた共有道具であり、特に食器類が多く保管されていた。食器類は、皿や湯飲み、朱塗り黒塗りの椀や膳などである。今回の展示では、講中道具の性格を知ってもらうためにも、こういったものを数多く並べた。また中には、外箱に道具をそろえた年号が墨書されているものもあり、幕末から明治、昭和といった年代が見られた（写真8、9）。

〈結納関係〉

ここでは晴れの日をの道具を展示した。三三九度の盃や盃台、「寿」と刻まれた銚子、菓子鉢、飯台、結納の時に酒を入れる柳樽などである。福田家の資料ではあるが、結納品であったと思われる布製の大きな鯛一對（昭和44年〔1969〕頃）も合わせて展示し、入口と対角線にある色鮮やかなこれらの資料は見る人の眼を惹いたのではないだろうか（写真10）。

〈共同作業〉

このほかには、講中で使用された穴掘り半てんや井戸替え用の道具も展示した。穴掘り半てんは、かつて埋葬方法が土葬だった頃、墓穴を掘る人が着る半てんである。四着あったため四人で掘ったことがわかる。穴掘り役は最も死の穢れに近いと考えられており、続けてその役目にあたることがないように輪番表に名前が記載された。

井戸替え用の道具には、げんば桶や滑車、綱があった。かつては、年に一度井戸の水を替えて掃除をすることになっていたため、講中では各家が順番に井戸の掃除を行ったのである。げんば桶には棒を通す穴が開いており、火災の時などに水を入れて運ぶためにも使われた（写真11）。

■地神講・稲荷講

今回の展示では、最近博物館へ寄贈された資料の紹介ということで、福田家と新屋敷講中道具のほかに、近年まで南区当麻の中・下宿地区で行われていた地神講と稲荷講に関わる資料も展示した。

地神講とは、3月と9月の社日の日に農業の神とされる地神を祀るものである。宿となった家の床の間に地神の掛軸を掛けて酒宴を開いていたが、中・下宿地区では集まりは徐々に減り、しだいに旅行をするようになった。

稲荷講は、2月の初午の日に当番の家の庭に幟を立て、やはり掛け軸を飾って講員が集まって飲食をした。しかし、講員の減少などの理由で双方とも解散することになり、講で使用されていた掛軸や帳面などの資料が長く後世まで残ることを願って、博物館に寄贈していただいた

のである。

3 展示説明

昨年度の展示と同じように、会期中には福の会会員による三度の展示説明（5月25日・6月8日・22日、10時30分～15時30分）が行われた。これは、展示期間中において通常行われる、資料やその背景などを企画者が「解説」するものではなく、実際に作業を行っている市民の目線から来館者とさまざまな点を会話することを目的に実施したものである。来館者との対話は、時に新たな発見や情報を得ることもあり有意義なものである。普段の展示からでは見えない、整理作業における苦労や楽しさなどを織り交ぜながらの説明は、来館者にとっても新鮮で、博物館をより身近に感じてもらえることに繋がるのではないだろうか。三度の説明で、合計約430人の参加者があった（写真12）。

また今回は展示説明の日に合わせて、子供の晴れ着に触れてもらうということも実施した。希望があれば実際に子供に羽織ってもらい、写真撮影も可能とした。とても好評だったようである。

4 今後の活動

福田家や新屋敷講中道具の整理が一段落ついた今、福の会では館蔵資料の再整理・確認作業に着手している。その作業を進めていく中で、また新たな資料の寄贈などがあればその整理作業も行い、今後とも互いに協働しながら活動を続けて行く予定である。

注

福の会の会員は2014年末現在で16名（小澤・加藤を含む）である。

展示資料一覧

福田家(衣類以外)

	資料	点数	備考
1	雛御殿	1	組み立て式
2	雛人形	7	木箱入り（お内裏様・お雛様・三人官女・右大臣・左大臣）
3	御座敷幟・幟台	1	組み立て式 現当主の兄（長男）のもの。旗に福田家の家紋である「丸に抱沢潟」と、母の実家である石井家の家紋「丸に花菱」があり、こうした人形は実家から贈られる
4	五月人形	1	武者、ガラスケース付き
5	五月人形	1	義経ほか二体、外箱に「王月」「五月人形山田義治」などの貼り紙あり
6	人形	1	神代武者
7	うちわ	3	
8	枕	2	木製
9	携帯用弁当箱	1	黒漆塗り
10	バスケット	1	藤製
11	薬箱	1	富山の置き薬
12	酒まんじゅう籠	1	蓋付き 福田家では、祭りの時などに200個ほど酒まんじゅうをつくり、厚木の親戚の家まで自転車で配りに行っていた
13	手桶	1	
14	桶	1	
15	柄杓	1	竹製
16	びく	1	
17	甕	1	蓋付き、焦げ茶色
18	鳥かご	1	木製
19	花器	1	

20	吸物椀	18	木箱2点、「明治三十八年新調 吸物椀 満留重婦久田」の墨書あり
21	日本赤十字社記念品	1	木箱に「日本赤十字社創立 二十五年記祝典記念 高座郡委員部」の墨書がある。明治35年(1902)のもの
22	五つ鉢	1	木製 それぞれ身と蓋で五組になる
23	雪駄	1	
24	錠前	2	鉄製
25	結納の鯛	1	昭和44年(1969)頃
26	箱枕	1	朱色(鶴・松模様)、俵付き(26～28は福田家長屋門にあったもの)
27	棹秤	1	
28	台秤	1	

衣類

	資料	点数	備考
29	黒留袖	1	絹 裾模様 雲鶴
30	長襦袢	1	絹 白、後ろひもあり
31	小紋柄のお召	1	絹 紫地に白の斑点模様 裏、背中、裏裾汚れ
32	夏帯単衣	1	絹 白地 菊 車 萩 刺繍模様
33	袋帯	1	絹 ベージュ地 金色模様
34	帯	1	絹 薄茶地橙色の菊模様 縁取りとして刺繍の縫い取りしぼり
35	幼児の着物	1	綿 薄桃色地 鳳凰柄桜 松 梅 半身教材用
36	羽織	1	絹 赤紫地 桜樹の紫模様 羽織の紐破損
37	長襦袢	1	絹 紫地 松竹梅柄 袖別布鶴模様
38	へちま襟のコート	1	絹 紫無地
39	長襦袢	1	絹 青紫地 ボタン柄 袖別布 虫食いあり 白襟裏メリンス朱
40	長着	1	絹 紺地 灰色緋様とび模様

41	夏用単衣	1	絹 薄紫地 白撫子杜若桔梗模様 裾袖口汚れあり
42	夏用単衣	1	絹 水色地 レース紅葉刺繍
43	教材 綿入れかい巻き	1	木綿 赤花鳥梅
44	男児祝い着	1	絹 紋付 黒地 青海波 後ろ鯉の滝上がり
45	女児振袖 長襦袢付き	1	絹 裾と袖に花づくし模様、紫色
46	女児長襦袢	1	絹 緋色
47	男児チャンチャンコ	1	絹 三越製 からし色地に5本の横縞模様
48	女児長着	1	不明
49	ほどした着物の布	6	モスリン 黄、黒地の花柄
50	男物長襦袢	1	メリンス 裏綿 袖、下身頃は紺地にちょうちん柄 上身頃は軍配の柄 衿黒 虫食いあり
51	帛紗	1	絹 表（黒、金糸で縫い取り）、裏（桃色、虫食いあり）
52	風呂敷	1	絹 裏は紅絹 生成地、花鳥柄（花に刺繍）
53	帛紗	1	絹 裏は紅絹 松竹梅の柄、縮綿
54	男物羽織	1	不明 黒、裏に絵、和歌。端切れあり
55	男物半襦袢	1	麻 袖、裏付き、黒衿付き、青地に白で模様、しみ、汚れ有り
56	男物細帯	2	絹 茶色と紺
57	男物袴	1	絹か 茶地 黒縞
58	男物黒紋付き長着	1	絹 五つ紋 黒
59	男物黒紋付き長着	1	絹 五つ紋 黒 紐付き
60	男物長着 袷	1	絹 グレー無地 折やけ 裏すそテープ 袖しみあり
61	男物長襦袢	1	絹 こげ茶 龍の模様
62	男物羽織	1	絹か 茶地 ベージュの緋模様
63	男物長着 袷	1	不明 茶地 ベージュの緋模様（215 とペアー）

64	足袋（黒）	1	綿 黒
65	羽織紐	一対	不明 黒
66	真綿	1（塊）	綿
67	男児綿入れ着物	1	絹 茶色地カブト模様、紐付き
68	男物博多帯	1	絹 表 緑、裏 紺 汚れ少々あり
69	男物羽織	1	紗 黒 裏 ベージュ格子地、竜の模様 紐あり
70	女物羽織 三ッ紋	1	絹 黒 地模様（すかし）

福田家以外(参考資料)

	資料	点数	備考
71	末広	1	金銀の紙、嫁入り道具
72	島田髷の飾り	1	嫁入り道具、昭和 17 年（1942）
73	簀迫	1	嫁入り道具、少し見えるように懐に入れて飾る
74	男児用オビアケの着物	1	メリンス 昭和 27 年（1952）
75	女兒用オビアケの着物	1	昭和 18 年（1943）
76	女兒七歳の祝着	1	
77	打掛模様	1	絹 薄い青地に松竹梅、鶴亀の刺繍、裏はオレンジ色で無地。全体に綿入り、虫食いあり
78	婚礼用弁当箱（男用）	1	プラスチック 昭和 33 年（1958）に横浜の式場で使用
79	七五三の晴れ着	1	79～85 は昭和 29 年（1954）寄贈者が七歳の時に使用したもの
80	長襦袢	1	
81	帯	1	
82	帯あげ	1	
83	簀迫	1	
84	髪飾り	1	

85	ぽっくり	1	
86	山高帽子	2	大正時代

新屋敷講中道具

	資料	点数	備考
87	平椀	1	黒塗り
88	飯椀	1	黒塗り
89	つぼ椀	20	黒塗り、蓋付き
90	椀	1	朱塗り、蓋付き、底のみ黒塗り
91	椀	身 14 蓋 19	外、内ともに朱塗り、鶴模様
92	吸物椀箱（蓋付き）	1	蓋には「小皿」とある。側面に「昭和四十六年七月調」「小皿 18 枚」とある。正面「安政二寅年求之 吸物椀 新屋敷講中」の墨書あり
93	膳	15	茶箱二箱入り（一箱 15 枚入り）、黒塗り
94	足付き膳	15	木製、茶色
95	足付き膳	20	木製、黒塗り
96	小皿	20	竹棒模様
97	小皿	1	赤い花模様
98	中皿	1	青い染め付け（山水画）
99	深鉢	1	青い染め付け（山水画）
100	絵皿	1	八角形
101	青絵皿	18	
102	菓子皿	10	木製、黒塗り
103	湯呑	5	青い花模様
104	急須	1	磁器 寿、福模様

105	三三九度用盃	2組 (6枚)	朱塗り、竹梅模様
106	盃台 (小)	1	朱塗り
107	盃台 (大)	1	朱塗り
108	箱	1	木製 「新屋敷講中」 「明治八年亥五月求」 「盃臺 (カ)」 「□□入」 の墨書あり
109	三三九度用銚子	2	鉄製 寿、梅模様
110	菓子鉢 (蓋付き)	1	朱塗り、富士山の絵柄
111	柳樽	一荷	朱塗り、結納の時に酒を入れる
112	飯台	1	朱塗り
113	穴掘り半てん	4	土葬の穴を掘る人が着る半てん。四着あり、四人で掘ったことがわかる
114	埋葬穴堀輪番表	1	それぞれの葬式で、穴掘り役を務めた四名を記録したもの。昭和 57 年 (1982) 10 月までの記録がある
115	井戸替え用桶 (げんば桶)、 滑車、綱	桶 1 滑車 1 綱 3	げんば桶には「新屋敷講中 昭和十一年四月新調」 (裏) 「金貳円五拾 銭□求」墨書がある。火災の時などに水を入れて運ぶためにも使われた
116	手桶	1	底部に「昭和二十年一月十三日 志 福田 福田操二十六歳ニテ戦没」の墨 書がある。戦没者の遺族から講中に寄付されたものであることがわかる

地神講・稲荷講

	資料	点数	備考
117	地神講掛軸	1	当麻下宿で平成 24 年 (2012) まで行われていた地神講の掛軸
118	地神講帳面	3	展示したのは昭和 44 年 (1969) の記載で、講の残額を四国旅行へ充て たことがわかる
119	地神講の旅行の旗	2	昭和 40 年代には、地神講で数年に一度、各地の旅行を行った
120	稲荷講掛軸 (白笹稲荷)	1	白笹稲荷は、秦野市今泉に鎮座。軸箱の裏には、「大正拾貳年貳月初午 新調氏子中」とある
121	稲荷講帳面	1	昭和 31 年 (1956) から平成 24 年までの、稲荷講の宿や掛かった経費、 会費などが記されている
122	稲荷講の幟	1	稲荷講の当番の家 (宿) の庭に立てたもの。大正 10 年 (1921)



写真1 福田家の蔵



写真2 資料洗浄作業



写真3 展示作業①



写真4 展示作業②



写真5 五月人形・御座敷幟・祝着



写真6 さまざまな生活用具



写真7 衣 類



写真8 講中道具（碗など）



写真9 講中道具（膳）



写真10 結納関係の道具



写真11 穴掘り半てん・井戸替え道具



写真12 展示説明の様子